

令和元年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証シート

全体の概要

大阪市立矢田西

小学校

児童数

28名

平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	単学級のため、数値の公表は控えております。								
大阪市	16.40	19.40	32.70	39.96	48.15	9.41	149.30	21.44	52.53
全国	16.37	19.80	33.24	41.74	50.32	9.42	151.45	21.61	53.61
女子	単学級のため、数値の公表は控えております。								
大阪市	16.15	18.51	37.54	38.38	38.97	9.65	142.68	13.31	54.47
全国	16.09	18.95	37.62	40.14	40.79	9.64	145.68	13.61	55.59

結果の概要

《体力・運動能力調査 8種目》

男子は、8種目中、上体起こし、20mシャトルラン、50m走の3種目で大阪市平均、全国平均ともに上回っている。反復横とびは、大阪市平均を上回っている。

女子は、8種目中、上体起こし、反復横とび、20mシャトルラン、50m走の4種目で大阪市平均、全国平均ともに上回り、体力合計点でも、上回っている。

《運動習慣等の調査 4項目》

「運動やスポーツについて」「体育の授業について」「その他(オリンピックについて・やり遂げる意識)」の3項目は、肯定的に捉えている児童の割合が高い。「ふだんの生活について」は、男女とも朝食、睡眠、映像の視聴(ゲーム機やスマートフォン等)に課題が見られる。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

《これまでの取組の成果》

平成26年度から平成29年度は、「運動が苦手な子どもや消極的な子どもへの手立てを工夫する」を視点として、体育科の研究を行った。その後も取り組みを厳正して、運動の日常化に努めてきた。今年度調査対象の児童は、1年時～3年時が研究期間にあたる。

今年度も年間2回、鉄棒週間を行った。継続しているので、技については、高いレベルの児童が多い。休み時間にも鉄棒で遊ぶ児童の姿も見受けられる。秋はランニング集会とランニング大会、冬はなわとび集会を実施し、体力向上を図った。ランニング集会の時期や、なわとび集会の時期が近付くと、自発的に運動場を走ったり、なわとびをしている児童が多く見られた。また、各学年・学級ごとに、休み時間にみんなで遊ぶ機会等を設け、運動するようにしてきた。休み時間には、元気に遊ぶことが日常化している様子がうかがえる。さらに課外の活動ではあるが、スポーツクラブがいくつかあり、そこで運動をしている児童も多い。持久力が高いのは、その要因もあると思われる。合わせて、今年度は、学校保健委員会で睡眠について取り組んだ。本調査の結果には反映されていないが、今後も継続して取り組みを進めていく。

《今後取り組むべき課題》

今後体育科の授業はこれまでの研究成果を生かし取り組みが進める。課題はバランスよく運動能力を高めていく指導計画の作成である。偏りがないか再検討していく。また、自ら学ぶ力を育成するための指導法を研究していく必要がある。本校児童は、運動やスポーツへの関心が高く、休み時間には、多くの児童が外遊びを行っている状況である。運動の日常化もできつつある。今後も実践してきた取り組みを精查し、継続して進めていく。